大崎市議会議員
さとう仁一友便（ゆうびん）
後援会だより
平成30年9月号
―― 地域に寄り添う、人と人を結ぶ ――

皆様の声を市政につなげます。ご意見などお気軽にお聞かせください。

さとう仁一連合後援会 | 〒989-6442 宮城県大崎市岩出山字下金沢154-1TEL：0229-72-4560 携帯：080-1855-3888
jinichi422@yahoo.co.jp URL http://jinichi-sato.jimdo.com/

議会報告 ～さとう仁一議員の議会活動を報告します～

第1回（平成30年）定例会は、2月6日から28日までの23日間の日程で行われました。平成30年度一般会計予算をはじめ、報告議案5件、人事案5件、予算案24件、条例案24件、その他3件が提出され、慎重審議の結果、全ての議案は原案のとおり可決されました。さとう仁一議員は、産業振興関係予算を中心に質疑を行いました。

第1回定例会　予算審査・質疑内容

●**商店街活性化事業**に連動して古川地区中心市街地へのコンパクトシティ＆ネットワークづくりを推進しているが、ネットワークする周辺商店街・温泉街の現状課題の整理と施策戦略を見直すべきである。

●**地域創造推進事業や産業創業支援事業**で、人材育成支援にAI（人工知能）やIOT（モノのインターネット化）の活用による農業分野の振興を図るため、工業分野や金融機関との価値を共有する施策が必要である。

●**和牛の郷づくり事業**で大崎市産の和牛種雄牛候補が鹿島台・岩出山・田尻などから生産されており、造成支援のあり方を検討すべきである。

●**観光振興事業**の施設費は、毎年オニコウベスキー場の更新費だけの単発予算計上である。県境の豊富な地場資源を活かすAIやIOTを導入した中山平・鬼首・鳴子温泉周辺の一体的な産業観光振興基盤の整備構想を構築して、相乗的なスキー場・温泉街の進展を図るべきである。

第2回（平成30年）定例会は、6月14日から29日までの16日間の日程で行われました。平成30年度一般会計補正予算をはじめ予算案4件、報告議案9件、人事案4件、条例案11件、その他7件が提出されました。

補正予算案の中には、農林業系（牧草）放射能汚染廃棄物の試験焼却処理関係予算が提案されました。市民生活上、非常に重要な議案であるにもかかわらず、審議は3日間で終わり、直ちに採決となり賛成多数で原案可決となりました。

さとう仁一議員は、「議会として6月議会で提案を受けて、継続審議する特別委員会などを設置し、公聴会や議員間討議を重ねて、9月の第3回定例会で議決すべき」と議会運営委員会で主張しましたが、実現しませんでした。

第2回定例会での主な議案質疑や一般質問の内容

●**放射能対策費**は、市民皆さんの間に放射能汚染の側溝土砂・牧草・稲わら・ほだ木など、現在の保管体制への不満や早期処理を望む声と合わせて処理方法への不安などがあり、全体の処理計画手順を示すのが先と考える。農林業系（牧草）放射能汚染廃棄物の試験焼却を先行する環境が整ったとは考えにくい。

↓主な理由は裏面「話題を追って」に詳しく記載

●**健康増進費の成人歯科受診が本市は低い傾向**にある。母子保健などを含めて、子どもの歯科検診に及ぼす影響が心配されることから、歯科衛生士の増員充実が求められている。正規職員2名、非常勤雇用1名と把握しているが、増員を行い、健康寿命の延伸の視点からも安定した保健・医療等の連携体制を整備すべきである。

●**財政調整基金（貯金相当）**は平成29年度末で約131億円、一方、地方債総額（借金相当）は約732億円である。先に示された財政調整基金残高の推移によると、平成37年度には約8億円まで減少し、地方債は増加という財政上のアンバランスが懸念される。今後の新市役所建設・古川中心市街地などへの大型投資、さらに各地区小学校の統廃合に対応した地域整備や農村地域振興など、均衡ある大崎市づくりへの財政計画と健全な運営に、しっかりとした財源確保と改善推進策を確立する時期である。

●**子どもの通学や遊びへの不安、不審者対策**など安全確保策が求められている。岩出山地区の小学校統合に続き古川・田尻・鳴子温泉地区が計画されており、社会変動に対応する**防犯カメラ設置**など、新たな通学環境整備計画や児童館整備、青少年健全育成の地域連携強化策を検討すべきである。

●**医療用ウイッグ助成**をここ4年強く提案して来たが本市は一向に進展しない。この1年で栗原市をはじめ7市町村と宮城県が助成を実施している現在、大崎市の姿勢を確認したい。一方、大崎市民病院がんサロンのボランティア活動団体は県下一であり、更なる育成支援と相談員の安定化に努力して、がん罹患者の社会参加促進に向けた市内企業などの雇用機関との情報交換連携を図って行くべきである。

平成30年　議会報告・意見交換会

7月18日～27日の間に、市内25会場で行われ、480名の市民の皆さんにご参加いただきました。ありがとうございました。

■岩出山地区の様子

■西古川地区の様子

話題を追って　～農林業系汚染廃棄物の処理について考える～

日々の生活で、市民の皆さんは東京電力福島第1原発事故で生じた放射性物質を含む農林業系廃棄物を目にしていることでしょう。

大崎市には、**表1**にあるような汚染廃棄物が各地域に保管されてあります。宮城県をはじめ汚染各県で処理方針の是非で迷走しています。処理には**表2**のような方法があり、大崎市では焼却方法を選択しました。

試験焼却処理の流れは、大崎市を含む加美町・色麻町・美里町・涌谷町で構成する大崎広域行政事務組合の西部玉造クリーンセンター（岩出山池月）、中央クリーンセンター（古川桜ノ目）、大崎東部クリーンセンター（涌谷）の3施設で、**表3**のように一般ごみと汚染牧草【東日本大震災後の平成23年8月に法改正された国の基準（1キロ当たり8,000ベクレル）】を混焼して、焼却灰は最終処分場の大日向クリーンパーク（三本木伊賀）に埋立てする計画です。

放射性廃棄物の物質検査体制や保管体制、さらに環境管理体制や健康不安対応など多くの点で、市民との情報共有の在り方が大切と考えます。試験焼却実施は決定されましたが、様々な課題が見えてきました。

●放射性汚染物の側溝土砂・牧草・稲わら・ほだ木などの安全な保管体制や全体の処理計画手順を示し、市民説明会を旧市町地区で丁寧に開催することが先であり大切と考える。

●原子力政策は、国策民営（電力会社）で進められてきた国家プロジェクト事業である。各処理方法に対して起因者責任に照らし、国の財政上の支援があり、市として他の処理方法についても費用や助成明細、期間などを示すべきである。

●現有する焼却施設や最終処分場は、一般ごみ焼却を目的として建設整備されており、放射性廃棄物の処理は国・事業者の責任とされてきた。しかし、国は平成23年8月に放射性物質汚対処特別措置法を改正し、平成24年1月1日施行から、現施設で放射能汚染8000Bq/kg以下の廃棄物を混焼・埋立できるようになった。それにも関わらず、これまで大崎市及び大崎広域行政事務組合は、市民や関係する焼却施設、最終処分場周辺関係者（申し合せ書・覚書）への説明を行っていない。

●焼却灰の埋立現最終処分場の埋立残容量は、ここ数年で満杯となる見込みである。今回の執行者の提案、議会での議決は、次期埋立最終処分場の選定に住民理解を得る信頼を損ない禍根を残す。試験焼却から本格燃焼には、それ以上の年数がかかる予定であり、焼却灰の埋立処理に影響が出る心配がある。

●本議案について、行政は市民との双方向で、理解のための努力を重ねた上で提案すべきであり、議会は二元性の市民代表として、特別委員会を設置し、十分な議員間討議を重ね、調査審議を行うのが議会の役割である。

＜表１＞■大崎市における農林業系廃棄物の保管状況（トン）

放射性ｾｼｳﾑ濃度	処理方法	稲わら	牧草	たい肥	ぼた木	合計	大崎市合計
8,000Bq/kg超		176				176	6,255
400超-8,000Bq/kg以下	処理方法検討中	553	2,356	9		2,918	
400Bq/kg以下	すき込み等が可能	4	2,937	14	206	3,161	

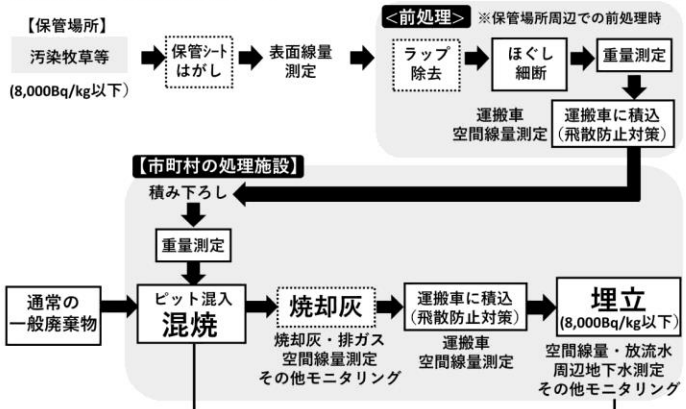
＜表2＞■処理方法の比較検討

処理方法	処理の概要	メリット	デメリット
すき込み	牧草等を、農地に戻し、プラウ等で反転耕を実施	●特別な施設を要しない	●すき込み作業中は表土流出防止への配慮が必要 ●広い面積の農地が必要
堆肥化	好気性条件下で、微生物の力により廃棄物中の有機物を分解し、堆肥化する	●堆肥として利用が可能 ●排ガスや廃液などの副生成物の発生がほとんどない	●還元農地、利用先の確保が必要であり、生産される堆肥量を考慮した処理が必要 ●臭気に留意が必要
林地還元	ぼた木を林地内で自然に腐朽させ、肥培材料として林地に還元	●特別な施設を要しない	●広い面積の林地の確保が必要 ●腐朽には数年の時間が必要
焼却	800℃以上で廃棄物を完全燃焼、焼却灰が発生	●処理能力、減容効果が大きい ●腐敗が進む前に処理が可能 ●既存の施設を利用できる ●国が処理の安全性を評価している	●焼却灰に放射性物質が濃縮 ●最終処分場の確保が必要
炭化熱分解	無酸素状態で加熱し、熱分解により炭素分と灰分からなる炭化物を生成	●減容効果が大きい	●排ガスなどの副生成物が発生するため、処理のための附帯設備が必要 ●副生成物の再利用先、最終処分先の検討が必要 ●施設を新設しなければならない

＜表３＞■試験焼却の実施概要

第３クール終了後⇒中間報告会を開催
試験焼却終了後⇒結果報告会を開催

●１クール当たり最大５トン（１日１トン×週５日）
●１施設あたり最大３０トン（１クール５トン×６クール実施）
●試験焼却合計最大９０トン（１施設最大３０トン×３施設）



施設名	モニタリングポスト設置個所
中央クリーンセンター（古川桜ノ目）	・中央クリーンセンター内 ・沢田簡場ちびっこ広場 ・高谷地公園 ・福浦児童遊園
西部玉造クリーンセンター（岩出山池月）	・西部玉造クリーンセンター内 ・あら伊達な道の駅 ・黒崎生活改善センター ・鶴目集会所
東部クリーンセンター（涌谷町）	・東部クリーンセンター内 ・涌谷町役場 ・さくらんぼこども園 ・石坂集落センター

施設名	モニタリングポスト設置個所
大日向クリーンパーク（古川三本木）	・大日向クリーンパーク北口 ・大日向クリーンパーク南口 ・近隣市有地（雲刈地内市道伊賀線沿い） ・伊賀集会所 ・市道蟻ヶ袋線待避所

後援会会長挨拶

今年はずいぶん暑い日が続きましたが、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

先の大崎市議会改選にあたりましては、皆様のご支援を賜り、再度『みなさんの手足となり、あなたの声を市政に』と、さとう仁一も心新たに日々努力しております。心より感謝申し上げます。

人口減少の社会現象は、地域社会に様々な課題を投げかけております。身近な問題から未来への課題をしっかりと見定めた議員活動を「さとう仁一」議員には期待しております。

これからも、皆様との語らいの中から生活上の不安解消、地域振興策など、夢と希望に向かって、ともに進める後援会づくりに努力いたします。お知恵をお貸し頂ければ幸いです。

さとう仁一連合後援会会長
遠澤啓子

さとう仁一挨拶

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。日頃のご指導、ご支援に心より御礼申し上げます。長年のお付き合い、新たな出会いの中で、英知を賜り感謝しております。

4月の議会改選により、経験豊富な諸先輩議員が勇退、新鋭な議員が誕生し、寂しさと新世代による期待が交差する議会構成となりました。

より一層、市民の代表機関としての議会、チェック機能としての議会を目指して「要求・要望型」から「分析・批評・提案型」の議会活動に努力いたします。

新たな市民目線をもって、多様な喫緊の課題解決や子ども達が夢・希望を描ける大崎市づくりに意を注いで参ります。ご助言をお願い致します。

もう少し、暑さや台風などへの辛抱が必要かと思っています。どうかお身体にお気をつけてお過ごしください。

大崎市議会議員
さとう仁一

大崎ウォッチング

NPO法人 シナイモツゴ郷の会

シナイモツゴは鹿島台の品井沼で大正時代に発見された体長8cmの小魚です。長期間、行方不明だったが1993年に鹿島台のため池で再発見され、**大崎市の天然記念物に指定**されています。2002年にシナイモツゴを守るためシナイモツゴ郷の会を結成、約100名の会員が活動しています。地域住民と共に池干しにより里山からブラックバスを一掃、ため池には**里親小学生**が育てたシナイモツゴを放流して、生息池を増やしています。

2008年には生き物ブランド米**「シナイモツゴ郷の米」認証制度**を立ち上げ、生息池を守る農業者を支援してきました。

シナイモツゴなどが生息する里山のため池は、農業者が守り続けてきた大切な農業遺産であることを、毎年開催するシンポジウムなどで全国へ向けて発信しています。

シナイモツゴ里親小学生の飼育風景

竹下亘自民党総務会長と

佐竹敬之秋田県知事と

全国内水面漁業協同組合連合会で議長を務める

理事長　二宮　景喜
大崎市鹿島台木間塚字小谷地504-1(鹿島台公民館内) TEL.080-1832-8437